
御仕舞いの空

大輔(だーすけ)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

御仕舞いの空

【Nコード】

N01780

【作者名】

だいすけ
大輔

【あらすじ】

ふと見た空が、いつもと違った。些細なことだけど何故か大きく感じた。遠い昔の記憶を探りながら、少しばかり思い出してみる・・・

ある夕焼けが酷く赤い日のことでした。

私はどうしようもない不安に駆られ、ふと上を見上げました。

まるで嫌な未来を告げるかのような空模様でいて、しかし神秘を纏った景色でした。

墨染の前のほんの抵抗。

それがあまりに儚く思えて、私は泣きたくなりました。

ひとつ、ふたつ、みつつ。

前に進めば進むほど、より幻想感が否めなくなっていくきます。

私は空に手を伸ばしました。掴めるかのように。

隣を駆けていく記憶に待てをかけられないのは、もどかしいことです。

私は私にすら置いてかれるのでしょうか。

再び空を見上げました。そうすれば物事が解決する気がしたのです。

しかし今や空は半分を黒に侵食されていました。

たった少しだけの情景は、直ぐに見納めとなっていくのです。

いつの日だったか、私の親友が言っていた気がします。

思い出したところで、過去は過ぎていく。

正論です。

私は様々なものを失い、思い出しては手が届かずに泣いたものです。

きつと今日の夕焼けもそうなのでしょう、あくまでも過去としてある。

最早空は黒で覆われてしまいました。

夜というものが世界を支配する時間。

私は不意に真っ暗な空に落ちて、

何も見えなくなっていました。

何も、

目覚めなくなってしまいました。

これが私の記憶の中の、

御仕舞いの空です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0178o/>

御仕舞いの空

2011年10月8日01時14分発行